紫紺の勇者たち (f) ~フェンシング部~

少数精鋭、女子の活躍も光る

1部昇格で 古豪復活へ手応え



客席で声いっぱいに応援。OBが大挙して に全国から40人ほどのOBが集結して観 三監督(昭和4年卒)に質問してきた。 学のOBが不思議そうな表情で井原健 国立スポーツ科学センター(東京都北区) リーグ戦会場に足を運ぶのは大学のフェ ンシング試合ではめずらしい光景だ。 明治では何かあったのか…?」。他大

男・商学部教授)の結束力と人間関係の それは、フェンシング部 (部長:若林幸 きである。涙ぐんだOBの姿も少なくな

部門で36年ぶりに1部昇格を決めたと

昨年6月。関東大学リーグ戦サーブル

と嬉しいヤッカミが出るほどだった。 これほどまでに騒がれなかったですョ・・・」 手からは「私たちが1部昇格したときは 良さを示す1部昇格戦でもあった。 エペ部門で1部に定着している女子選

らませるエポックメイキングな年となった。 08年は第3期黄金時代への夢をふく

「恕」をもってやれ

のなかに剣と剣が鎬(しのぎ)を削る快音 が響いている。 う地上階をよそに地階体育館では静寂 練習は駿河台のリバティタワー。にぎわ

> がモットー。 守る。そのうえで授業優先の「文武両道」 てきた。みんな前向き」とコーチ陣が見 14時。日曜は試合が多い。「積極性が出 練習は平日が17時~21時、土曜10

> > 帯性を説いている。

フェンシング界の重鎮輩出

る」と技術の先鋭化と並行して精神の連

思いやりの心です。個人個人が恕をもつ

て接すれば団体戦も制することができ

る。エペ、フルーレ、サーブル3部門の専門 部員数からすれば少数精鋭の軍団であ トリーのケースが多くなってくる。 化が進むなかで明治は選手のダブル・エン 人といわれる大学フェンシング部の平均 部員は16人。来年度は18人体制に。40

段の三上哲夫が海外遠征し、欧州の武

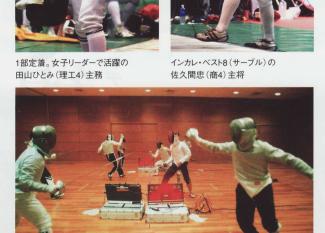
部は昭和12

1937

には『恕』をもってやれ。こう言ってます。 くりに力を注いでいる井原監督は「部員 1分1秒でも多く現役と一緒の時間で

> き、7年には創部7周年を迎えた。この 昭和20年代、40年代初頭に黄金期を築 ふれて、学内で同志を集めて創設した。 士道 "ともいうべき騎士道のスポーツに

、ナショナルチームや五輪選手を輩出す



リバティタワー地階での練習は鎬の快音が響く



「まず基本に忠実で」と指導に余念のない 上田コーチ



「1秒でも多く現役と一緒に」という熱血漢・ 井原監督

コーチ陣は一生友人

る重鎮が巣立っている。

英一(昭和25年卒)らフェンシング界を支え るほか、日本フェンシング協会会長の中嶋

相棒で家族のような付き合い。 ならんとする明治フェンシング仲間。 昭和4年卒)と井原は、もう半世紀に 女房役ともいうべきコーチの上田和夫 良き

れを実証するコーチング体制だ。 係。という幸福がある」と述べている。そ 4年間努力した後に、一生、良い人間関 井原は『創部70周年記念誌』で学生に 卒業して何年になろうとも現役を見

守る「紫紺の勇者たち」はここにもいる。 (文中・敬称略) The Quarterly Meiji

